

Q&A

- 1** 奨学金はどのようなものがありますか？
大学院の主な奨学金には、「学校法人駒澤学園奨学金」、「日本学生支援機構奨学金」があります。
詳しくは、本学ホームページ(https://www.komajo.ac.jp/uni/campuslife/support_expenses.html)をご覧ください。
- 2** 学内の心理相談センターでは、どのようなケースを担当できますか？
来談者の年齢や相談内容を踏まえて、大学院生（臨床心理学専攻）の興味・関心に応じたケースを担当することが可能です。
また、各ケースについての指導もしっかりと行います。
- 3** 研究指導の先生はいつ、どのようにして決まりますか？
研究指導の先生は、5月に決まります。
決定するまでに、各先生の研究の紹介を聴く機会が設けられますので、入学後、じっくりと考えて決めることが可能です。

入学者選抜情報

※入学者選抜日程等に関しましては、2024年度入学者選抜要項にてご確認ください。
※今後の新型コロナウイルス感染症状況によっては、試験日程および選抜方法などを変更して実施する場合があります。
その際には、本学ホームページにてお知らせいたします。

I期

必要書類郵送期間（消印有効）	2023年8月21日（月）～8月22日（火）
試験日	2023年8月30日（水）
合格発表日	2023年9月13日（水）

II期

必要書類郵送期間（消印有効）	2024年1月19日（金）～1月26日（金）
試験日	2024年2月6日（火）
合格発表日	2024年2月15日（木）

OPEN CAMPUS 2023 予約制

大学院オープンキャンパスを開催!

駒沢女子大学大学院の受験を希望する方に、両専攻の内容を理解していただくためのオープンキャンパスを開催いたします。
詳しくは本学ホームページをご覧ください。

6月18日（日） 7月22日（土）

大学院見学・研究室訪問（要予約）

オープンキャンパスに参加できない方、教員とゆっくりお話ししたい方、普段の様子を見たい方など、どんな目的でも構いません。ぜひ、大学院見学・研究室訪問にお越しください!

申込方法 E-mail:kouhou@komajo.ac.jp

※ご連絡の際は、①希望日時（第三希望まで）、②お名前（フリガナ）、③出身（在籍）大学、④電話番号、⑤お話ししたい教員名と質問、⑥件名「大学院見学・研究室訪問申し込み」をメールでお知らせください。
※担当者より2～3日以内に連絡がない場合は、お手数ですが入試センター（TEL:042-350-7110）までご連絡ください。
※オンラインでの相談を希望の方は、その旨も合わせてご連絡ください。



ACCESS

【小田急バス】

京王線稲城駅より：駅前バスターミナル2番乗り場より小田急バス駒沢学園行き・新百合ヶ丘駅行き・柿生駅北口行きに乗車（所要時間約7分）

小田急線新百合ヶ丘駅より：南口バスターミナル5番乗り場より小田急バス駒沢学園行き・稲城駅行き・稲城市立病院行きに乗車（所要時間約20分）

※いずれも駒沢学園で下車。（駒沢学園入口で下車されないようご注意ください）

【スクールバス（有料）】

JR南武線稲城長沼駅より：所要時間約14分

【徒歩】

京王線稲城駅より：約25分



駒沢女子大学 大学院 人文科学研究科 仏教文化専攻／臨床心理学専攻 2024



仏教文化専攻 (修士課程) P.2

仏教文化、禅文化を通じて 日本文化を世界に発信できる人材の育成

インドで発した仏教は、その普遍的な真理を提示しつつもアジア各地の文化と融合しながら、さまざまな変容を遂げてきました。それは仏教がそれぞれの文化の個性に調和し、人々の生活に根づいていく過程であったといえます。とりわけ日本の伝統文化と仏教の縁は深く、日本文化の個性は仏教との出会いによって彩られ、仏教によって活路を見出してきたといってもいいでしょう。日本の文化と社会を正確に理解するために、仏教文化とその役割を深く洞察することは非常に重要です。現代において多様な異文化との接触は、誰しも日常的な出来事です。仏教文化の豊かな諸相を貫く普遍性、あるいは日本文化の特性に秘められた確かな普遍性への自覚はきわめて大切なものになっています。それは他者との共感を育み、それぞれの社会的活動に魅力的な成果を用意することでもあるのです。本専攻は、仏教学・禅学・哲学・歴史学・文学など、先人によって切り開かれてきた学問分野を具体的に学びながら、知的好奇心にしたがって新たな領域に挑戦していきます。さらに演習・講読・実習を通して、禅籍を含む仏典、古典文学、古記録・古文書などの文献を精密に読み解き、原典との対話を楽しみながら、全体像をつかみ、そのなかから自分のテーマを論証する技術を修得していきます。

臨床心理学専攻 (修士課程) P.5

「こころ」に関する精深な専門知識を身につけ 真に豊かな人間生活をいつくしむことのできる 心理のプロフェッショナルを育てます

駒沢女子大学大学院臨床心理学専攻では、保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野、その他の幅広い分野で、心理の理論と技法を用いて活躍する人材の育成を目的としています。本専攻は、特定の専門分野に偏らず、あらゆる分野の専門科目をバランスよく学べるカリキュラムが特徴で、公認心理師と臨床心理士の養成に対応しています。実習では、「臨床心理基礎実習I・II」として院生同士のロールプレイや試行カウンセリングを行い、現場での実習に向けて実践力を磨きます。また、「臨床心理実習I (心理実践実習)」では、駒沢学園心理相談センターでの学内実習のほか、教育分野、保健医療分野、福祉分野での学外実習を通して、幅広い臨床力を身につけます。さらに、多様な専門分野・臨床経験を持つ公認心理師・臨床心理士の教員による「臨床心理実習II」でのケースカンファレンスなどを通じて、実習先で相談を担当したケースのうち継続事例をもとに院生同士が活発に意見を交換します。豊富な臨床実習体験と、教員からの細やかな個人スーパービジョン、院生同士が事例検討や積極的なディスカッションを重ねて互いに学びを深め合う経験により、人と寄り添う臨床家としてのアイデンティティを形成していきます。さらに適切な修士論文指導を通して、教員との和気藹々の学びと研究研鑽を行っています。

アドミッション・ポリシー

駒沢女子大学大学院 人文科学研究科のアドミッション・ポリシー

駒沢女子大学大学院人文科学研究科修士課程は、人文科学の領域における深い学識と研究方法、各専門分野の高度な専門的知識と実践的技能を身につけた上で、それらを社会に活かす意欲のある者を求めています。

仏教文化専攻のアドミッション・ポリシー

仏教文化専攻では、以下のような者の入学を認めています。

- 1.日本の仏教文化に対して興味や関心を持ち、専門的に深く学びたい者。
- 2.主体的に課題を発見し、複数の視点から解決の方法を吟味し、実践しようとする意欲のある者。
- 3.社会の身近な問題に対して、客観的・論理的に分析しようとする意欲のある者。

臨床心理学専攻のアドミッション・ポリシー

臨床心理学専攻では、以下のような者の入学を認めています。

- 1.人間が持つ心理的な課題に関心があり、心理学を専門的に深く学びたい者。
- 2.他者の心理的問題を理解し、解決しようとする思いやりと謙虚さを持ち合わせている者。
- 3.主体的に課題を発見し、複数の視点から解決の方法を吟味し、実践しようという意欲のある者。

仏教文化専攻 (修士課程)

駒沢女子大学
人文科学研究科
大学院

⇒カリキュラム

必修科目	選択必修科目	選択科目
日本文化史 日本文化論	日本文化史特殊講義A・B 日本文化論演習 日本美術史演習 古典文学演習 比較文化特殊講義I・II 日本文化論特殊講義 仏教文化演習 日本文化演習 哲学特殊講義	仏教文化特殊講義 古典文学特殊講義 仏典講読 日本文化実習 日本文化論特殊講義 古典講読 日本美術史特殊講義

■修了要件:2年以上在学し、必要単位(必修科目:8単位、選択必修科目:16単位、選択科目:6単位、合計:30単位)を修得し、修士論文審査に合格すること。修士論文指導の教員は、研究テーマによって自ら選べますが、わが校にない場合は研究計画に基づいて専攻会議で決定します。

■学 位:修士(文学)

⇒研究テーマ

駒沢女子大学大学院仏教文化専攻では、道元禅師の禅、すなわち「正念」[「行学一如」]を建学の精神とする伝統をふまえ、幅広い視野を有し人間性豊かな現代女性を育成するとともに、より高度な仏教文化の研究を通じて専門性を有する職業に必要な能力を養うことを目的としています。右記がこれまでの修士生が学んだ研究テーマの一部の紹介です。2年間の専門学習の成果を修士論文にまとめ、修士(文学)の学位取得を目指して、あなただけの新しい一歩を進めましょう。

- 施餓鬼經典から施餓鬼儀礼へ
-日本仏教における施餓鬼会の対照研究
- 寺社における参道の役割について
- 柳宗悦における仏教思想-「南無阿弥陀仏」を中心に
- 精進料理思想の源流-栄西から道元へ
- 日本語における仏教語の意味変遷
- 日本禅宗寺院における土地神の諸問題について
-曹洞宗を中心として-
- 近代のいけばなの成立と思想に関する研究

⇒社会人・退職された方へ

学生時代・若い頃には、特に興味・関心のある分野ではなかったが、経験を積んだ今だからこそ仏教・禅・歴史・古典・民俗等、日本の伝統文化を、より深く大学院で学び直してみたい、研究してみたい。そんな方に仏教文化専攻には社会人特別入学者

選抜と長期履修制度があります。長期履修制度は、自己申告により最短2年の修学期間を3年から5年まで延長することができます。さらに学費も2年間分の授業料を3年から5年まで分割して納めることができます。



⇒教員一覧と担当科目

安藤 嘉則

[担当科目] 仏教文化演習 仏教文化特殊講義

佐々木 俊道

[担当科目] 日本文化論演習 哲学特殊講義

遠山 元浩

[担当科目] 日本文化史

皆川 義孝

[担当科目] 日本文化史演習 日本文化実習

今野 慶信

[担当科目] 日本文化史特殊講義A・B

下川 雅弘

[担当科目] 日本文化実習

三田 誠司

[担当科目] 古典講読 古典文学特殊講義

山本 元隆

[担当科目] 日本文化論 仏典講読 日本文化論特殊講義 比較文化特殊講義I・II

⇒ 講義の内容

授業科目名	講義等の内容
●日本文化史 遠山 元浩	主に古文書をはじめとする歴史資料の講読を中心に据えて日本文化を学ぶ。日本史に関する資料、とくに古文書・古記録などには多種多様な題材を取り扱ったものがあり、それらには日本文化のエッセンスが詰まっている。そのため、これらを講読することにより日本人が伝えてきた文化を知り、実際の歴史資料に触れることにより、日本史学に対する素養も身につけていくことを目的とする。
●日本文化論 山本 元隆	日本の宗教文化の特徴や歴史について考察する。最初に日本の宗教文化の特徴や歴史について概説。その後、神仏習合と本地垂迹説にかかわる各種宗教絵画や高僧伝絵巻(国宝「一遍聖絵」など)を使用し、日本における仏教と神道および既存信仰との密接な繋がりを紐解き、その理解を深めていく。
●仏教文化特殊講義 安藤 嘉則	日本における仏教の主要な宗派を特徴づける思想は、浄土・法華・禪・密教であるが、これらの四つの思想はいずれもインド・中国・日本における仏教の思想的展開を反映したものである。本講義は、まず、この四思想を仏教思想の軸として捉えて、仏教思想の総合的な理解を図り、さらにインド・中国・日本の三国仏教の思想の変遷という視点から、この四思想の思想的展開を解明する。
●仏教文化演習 安藤 嘉則	日本における主要な宗派の仏教思想の源流を、それぞれの原典資料のなかに探るとともに、その思想的展開を追究しながら、仏教思想を背景とするアジア・日本における文化的諸事象の特質と意義を考察し、仏教文化というより広い視野で仏教を把握することをねらいとする。
●仏典講読 山本 元隆	一般に仏典とは、経・律・論の三蔵を指すが、ここでは主に日本の仏教文化に大きな影響を与えたインド由来の大乗仏典として、唯識思想の文献を読む。テキストは「中辺分別論」とし、これと関連する弥勒の五法と称せられる一連の初期唯識文献の内容を概説しながら、テキストを熟読し、仏教学の専門的知識の獲得を目指す。
●日本文化論特殊講義 山本 元隆	日本に伝来した仏教を、我々日本人は、どのように受け止め、解釈してきたのであろうか。それを、思想のみならず、現実の教団の確立、展開のうえからも明らかにしていく。また、修行僧のみならず日本人全般の日常生活に、いかなる影響を与えてきたのかを究明する。さらに、日本発の仏教を世界に向けて発信する意義も併せて考察してみたい。

授業科目名	講義等の内容
●日本文化論演習 佐々木 俊道	曹洞宗教団の発展と教線の拡大を歴史的に究明する。次に、日本文化という視点から、それが思想のみならず、信仰の実際、儀礼の実際、葬式仏教、受戒、土着宗教との習合・混交・複合という文化事象からも明らかにしていきたい。それらを通じて日本文化の核心を考察してみたい。
●日本文化史特殊講義 A・B 今野 慶信	現代につながる「中世文化」をテーマに、鎌倉時代に成立した史料を講読・解説しながら、中世文化を考察していく。具体的には、鎌倉幕府の歴史書「吾妻鏡」、説話集「古今著聞集」、文芸作品「平家物語」「曾我物語」を通して、中世文化を見ていく。
●日本文化実習 下川 雅弘 皆川 義孝	本実習は、学外の資料館・寺院・博物館・図書館などにおいて研究調査・資料蒐集・芸鑑賞などの実習を行い、体験的、実践的な研究活動をするものである。実習内容としては写本の扱い方・資料の撮影・複写の仕方などの技術を学び、第一次資料を扱うための専門的知識を修得する。
●比較文化特殊講義I・II 山本 元隆	比較文化特殊講義Iでは方法論を中心に説話文学を比較文化的視点で考察する。「説話」は特に文学の中でも仏教とのかかわりが深い分野である。具体的には仏教説話と『黄金伝説』といった中世ヨーロッパの聖人伝を比較する。比較文化特殊講義IIでは、さらにそれを発展させて、より緻密な内容分析と批判的思考を修得する。
●哲学特殊講義 佐々木 俊道	この授業は、哲学研究の方法論ならびに、哲学者に関する専門的知識を修得する。具体的には現在の哲学に影響を与えている近代以前の哲学を概観し、その思想の特徴を理解する。また、倫理学、認識論、宇宙論、美学等の哲学的発想をいくつか取り上げて、その思想の発展を確認しながら、現代哲学の関心と課題を紹介する。
●古典文学特殊講義 三田 誠司	『万葉集』巻第一を講読する。諸注釈を参照し、キーワードについては索引で用例を調査するなど、専門的な研究方法によって読みすすめ、『万葉集』研究の基礎を修得し、和歌文学について考察する。

※年度によって開講しない科目もあります。

⇒ 特色

1 多様な36科目を開講 公認心理師と臨床心理士の両受験資格カリキュラムに対応しています

公認心理師と臨床心理士の両受験資格を得たい場合

- 2018年度以降の入学者が公認心理師の受験資格を得るには、卒業した大学(学部)での単位取得科目が国の指定する要件を満たしている必要があります。
- 本大学院は第1種指定校なので、修了要件を満たせば臨床心理士の受験資格が同時に得られます。
- 学内実習に加え、3分野での学外実習が用意されています。

臨床心理士のための受験資格を得たい場合

- 学部課程での履修科目は問われません。
- 学内実習に加え、1箇所以上の学外実習が必須です。



2 心理療法の基本原理(洞察、体験、行動、表現) 全てをマスターできる多彩な心理療法特講を揃えています

- 心理療法特講A: 遊戯療法
- 心理療法特講B: 芸術療法
- 心理療法特講C(心理支援に関する理論と実践II): 認知行動療法
- 心理療法特講D(心理支援に関する理論と実践III): 精神分析的な心理療法



3 段階的かつ多面的な臨床体験をもつ実習指導 (充実した実習指導と多彩な実習先)を実践しています

		院生同士のロールプレイング					
		院生同士での試行カウンセリング(他大学院との共同プログラム)					
1年次	前期						
	後期	心理相談センターの運営実習	心理相談センターでの陪席	心理相談センターでのケース担当	心理相談センターにおける地域支援	教育分野での臨床実習	
2年次	前期					保健医療分野での臨床実習	福祉分野での臨床実習
	後期						
		学内実習				学外実習	

公認心理師・臨床心理士資格を持つ教員による、豊かな臨床的視点からのケース・スーパービジョンが行われます。教員の専門は、認知行動療法、精神分析的な心理療法、来談者中心療法、芸術療法、イメージ療法など多方面にわたり、対象も乳幼児から高齢者まで幅広く対応しています。また、今後も学外実習先を新規開拓していく予定です。



学外実習機関(五十音順)

教育分野

稲城市教育センター、小平市教育支援室、さいたま市総合教育相談室

保健医療分野

医療法人社団大坪会小石川東京病院、医療法人社団草思会クボタクリニック・錦糸町クボタクリニック、医療法人社団長生会成長生病院、医療法人社団碧水会長谷川病院、小田原市立病院心身医療科、クリニック川畑、公益財団法人神経研究所附属晴和病院(建替え工事を控え休診)、特定医療法人研精会稲城台病院

福祉分野

ウイング稲城、社会福祉法人日本心身障害児協会島田療育センター、東京都児童相談センター治療指導課

学内実習先

駒沢学園心理相談センター

2003年に本大学院修士課程に臨床心理学専攻が新設されたのに伴って開設したもので、相談受付兼待合室1室、個別面接室5室、集団面接室1室、遊戯療法室2室からなる本格的な施設です。公認心理師・臨床心理士の資格を有する本学の教員らが相談に応じ、必要に応じて心理検査なども行っています。院生はここで、陪席やスーパービジョンを受けながらケースを担当し、心理臨床の実践力を養っていきます。また、地域に向けたコミュニティ・アプローチなどにも携わっていきます。

4 在学中から修了後まで、充実した教育・研究指導体制

▶講義 各々が主体的かつ自発的に課題について調べ、発表し、皆でディスカッションすることで、問題発見力・解決力を高めていきます。

▶ゼミ 自発的なテーマ設定をもとに、少人数ゼミで指導教員の細やかな修士論文指導が行われます。

▶学内・学外実習 学内実習では、ケース担当に他大学院との共同プログラムとして試行カウンセリングを行い、実践的な臨床力を身につけます。その後、学内に設置された心理相談センターで、陪席やスーパービジョンを受けながらのケース担当を通して、臨床力の向上を目指します。その他に、地域支援の実習として、心理相談センターが主催する地域に向けたセミナーやプロジェクトの運営にも携わります。学外実習では、複数の分野で長期の実習体験を積むことで、現場での実践力を身につけます。

▶心理相談センター研修相談員 修士課程修了後も研修相談員としてセンターのケースを担当し、カンファレンスへの参加や教員からのスーパービジョンを受けられます。また、図書館や学内のデスク、パソコンが引き続き利用できます。

▶自主勉強会・研究会 院生や研修相談員、修了生などによる自主的な勉強会・研究会が盛んです(例:心理検査勉強会、資格試験勉強会、公認心理師試験・臨床心理士資格審査合格者報告会、駒沢女子大学臨床心理学研究会など)。

公認心理師試験・臨床心理士資格審査合格者報告会



その年度の公認心理師試験・臨床心理士資格審査に合格した先輩たちが、合格につながる勉強の仕方や、当日の試験会場の雰囲気、試験問題・面接内容などを詳しく教えてくれます。

5 くつろぎと学びのキャンパスライフを目指して

大学院生の学習をサポートし、研究・学習に専念できる環境を整えています。院生専用の研究室として、図書館の隣にゆったりとしたスペースが確保されています。個人に貸与する自習机と共有のパソコンがあり、学習はもちろん、学習の合間に休憩できるスペースにもなっています。また、研究室の側に施錠できるロッカーが貸与され、資料などの私物や上着を収納することができます。この他、コピー費の補助、独自の奨学金制度などがあります。



修士論文の研究テーマ(2020～2022年度)

- いじめにおける傍観者意識とストレス反応の関連と傍観時の心理
- 青年期後期における自己評価と適応感
- 自己複雑性とセルフ・コンパッションが精神的健康に及ぼす影響
- 女子大学生における課題先延ばし傾向と楽観・悲観性及びレジリエンスの関連性について
- 対人恐怖心・自己愛の類型別にみた青年期における葛藤場面の対処方略
- 潜在的・顕在的なIWMのズレが及ぼす対人ストレス、自尊心への影響
- 青年期の自己愛脆弱性とメンタライゼーションからみたデートDV経験
- 親子関係と子どもに関する経験・学習および性別役割態度が女子大学生の親性準備性に及ぼす影響
- 養育者の育児幸福感和育児環境および地域コミュニティとの関連について



大学院生の出身大学

本大学院生の出身大学は、本大学のみならずこれまでに、青山学院大学、跡見学園女子大学、いわき明星大学(現:医療創生大学)、岩手大学、大阪芸術大学、大妻女子大学、桜美林大学、香川大学、学習院大学、金沢大学、京都ノートルダム女子大学、共立女子大学、慶應義塾大学、駒澤大学、相模女子大学、実践女子大学、首都大学東京(現:東京都立大学)、上智大学、昭和女子大学、白百合女子大学、聖心女子大学、成蹊大学、聖徳大学、専修大学、創価大学、大正大学、筑紫学園大学、中央大学、帝京大学、東海大学、東京学芸大学、東京純心女子大学(現:東京純心大学)、東京女子大学、東京成徳大学、東北大学、東洋英和女学院大学、長崎大学、新潟大学、新潟青陵大学、日本女子大学、日本大学、福岡県立大学、文化学園大学、文教大学、法政大学、放送大学、宮城学院女子大学、武蔵野大学、明治学院大学、目白大学、山梨大学、立正大学、ルーテル学院大学、和光大学など幅広く、社会人や他学部出身の方も在籍しています。大学院生活も和気藹々と相互に研鑽しあって充実しています。

⇒ サポートプログラム

駒沢女子大学臨床心理学研究会

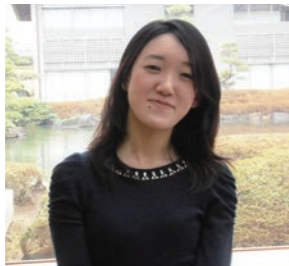
駒沢女子大学臨床心理学研究会では、公認心理師・臨床心理士として必要な専門知識・技術の修得と、互いの研鑽による向上を目指して毎年1回、学内外の先生をお招きして研究会を開催します。例年、研究会と併せて懇親会も開催され、学年を越えての交流が持たれています。

2021年度:新型コロナウイルス感染症の流行状況を考慮し、オンライン開催となりました。午前の第I部では、依田尚也先生(当時、学習院大学)より、「心理検査フィードバックを深掘りする」とのテーマでご講演いただきました。午後の第II部は事例検討会で、本学修了の10期生1名が心理検査を実施した事例を提示し、依田先生よりコメントをいただきました。最後に、セッションの振り返りとオンライン上で小グループに分かれての交流会を

行いました。

2022年度:前年度に引き続き、オンライン開催となりました。午前の第I部では、田中教仁先生より、「司法領域における臨床の実際—一面会交流事件における支援」とのテーマでご講演いただきました。午後の第II部は、架空事例を素材とした検討やグループ・ディスカッションにより、午前中の学びをさらに確かなものとししました。

いずれの年もオンラインでの開催となりましたが、遠方でも、また、子育て中でも参加しやすいメリットもあり、充実した学びの機会を得られた貴重な1日となりました。なお、この研修会は臨床心理士資格更新のための研修機会ともなっています。



駒沢女子大学臨床心理学研究会について

OG幹事会の2代目会長、10期生の武山です。現在は横浜市西部地域療育センターで働いています。2016年度までOGによって運営されてきた卒業後研究会と、在学生を中心に行われてきたワークショップを発展的に統合し、駒沢女子大学臨床心理学研究会が誕生しました。研究会は、修了生が初心に戻って自分の臨床を見つめられる場所、先生方に相談できる機会、現場で活躍している修了生と心理職を目指して勉強中の大学院生が交流できる場です。また、この研究会は、臨床心理士の資格更新に係る研修会として承認された実績があります。今後、より一層盛り上げていけるよう、運営していきたいと思っています。

公認心理師試験・臨床心理士資格審査対策

公認心理師・臨床心理士になるためには、修士課程で所定の科目を履修し、さらにそれぞれ年に1回の国家試験(筆記試験)、資格審査(筆記試験+面接試験)に合格しなければなりません。本学では、両筆記試験の対策として、外部模擬試験の受験料補助を行っています。また、その年度の資格試験に合格した先輩から勉強方法のアドバイスを受けられる合格者報告会(p.6)が行われています。

臨床心理士資格審査の2次試験(口述面接試験)では、面接官から臨床心理士としての基本的な姿勢や態度、専門家

として最低限備えておくべき人間関係能力の実際が問われます。本学では、教員やすべてに臨床心理士資格を取得した先輩たちの協力を得て、学内での模擬面接を行っています。



駒沢学園心理相談センター

心理相談センターは、本学大学院人文科学研究科臨床心理学専攻の大学院生が学ぶ学内実習機関であると同時に、地域に開かれた「こころの相談」のための専門機関です。公認心理師・臨床心理士の資格を有する本学教員や大学院修了後の研修相談員などが相談を担当します。大学院生は1年次後期からインテーク面接に陪席し、インテーク・カンファレンスの資料なども作成します。また、指導を受けながらケースを担当します。心理相談センターでは、子どもから大人までを対象に、子どもの遊戯療法や家族の相談・援助、大人のカウンセリングを行っています。具体的には、子どもの情緒障害や発達遅れの遅れ、大人の不安やうつなどのメンタルな問題、人間関係や家庭内の問題、子育ての問題などの相談に応じています。また、必要に応じて性格検査、知能検査、発達検査などの心理検査も行っています。さらに、地域の方々を対象とした、子育てをより楽しむための「育児ストレス予防プログラム」なども実施しています。



◎心理相談センター主催セミナー

心理相談センターでは毎年度、地域の方を対象とした公開セミナーを開催しています。2022年度は「子育てに活かす心理学 Part2」を年間のテーマとし、第1回セミナー「健やかな妊娠・出産・育児のために、聴いてみようママができる「こころの予防」、第2回セミナー「発達障害の理解と対応 発達に気になる子どもはどう接したらいい?」というタイトルで、日常生活に使える心理学の知見や方法をご紹介します。詳細については、駒沢学園心理相談センターのホームページでご確認ください。

⇒ 教員一覧

専任教員



<専攻主任> **藤川 麗**
(公認心理師 臨床心理士)

教授、博士(教育学)

【担当科目】心の健康教育に関する理論と実践 コミュニティ・アプローチ特講(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践II) 臨床心理基礎実習II 臨床心理実習IA・B・C・D(心理実践実習I・II・III・IV) 臨床心理実習IIA・B・C・D 臨床心理学研究実践I・II
【主な臨床領域または専門分野】教育領域(学生相談) 子育て支援
【主な臨床技法】認知行動療法 コミュニティ・アプローチ
【研究課題】臨床心理職と異職種とのコラボレーション(協働)による臨床心理実践の研究、育児ストレス・マネジメントプログラムの開発



飯田 敏晴
(公認心理師 臨床心理士)

准教授、博士(心理学)

【担当科目】臨床心理面接特論II 臨床心理査定演習II 臨床心理基礎実習II 臨床心理実習IA・B・C・D(心理実践実習I・II・III・IV) 臨床心理実習IIA・B・C・D 臨床心理学研究実践I・II
【主な臨床領域または専門分野】医療領域・多文化カウンセリング
【主な臨床技法】チーム/コミュニティアプローチ、臨床心理アセスメント
【研究課題】助け合い(援助要請/援助行動)、長期療養支援、多文化カウンセリングコンピテンシー



田中 教仁
(公認心理師)

准教授、修士(社会福祉学)

【担当科目】司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 家族心理学特講(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践I)
【主な臨床領域または専門分野】司法・犯罪心理学 家族心理学
【主な臨床技法】ナラティブ・アプローチ
【研究課題】非行臨床における少年の立ち直り支援、犯罪被害者支援、離婚や親権の帰す等を巡る問題を抱える家族への援助



富士原 光洋

教授、修士(文学)

【担当科目】心理学研究法特講 臨床心理学研究実践I・II
【主な臨床領域または専門分野】認知心理学
基礎心理学(記憶、言語)
【研究課題】言葉の使用に関する認知過程の解明



依田 尚也
(公認心理師 臨床心理士)

講師、博士(心理学)

【担当科目】心理療法特講B(芸術療法) 臨床心理査定演習(心理的アセスメントに関する理論と実践)・II 臨床心理基礎実習II 臨床心理実習IA・B・C・D(心理実践実習I・II・III・IV) 臨床心理実習IIA・B・C・D 臨床心理学研究実践I・II
【主な臨床領域または専門分野】医療領域 教育領域
【主な臨床技法】治療的アセスメント(対話を重視した協働的な心理アセスメント)
【研究課題】心理アセスメントにおける「対話」の治療的意義



綾城 初穂
(公認心理師 臨床心理士)

准教授、博士(教育学)

【担当科目】臨床心理学特論I 臨床心理面接特論I(心理支援に関する理論と実践I) 学校臨床心理特講(教育分野に関する理論と支援の展開) 臨床心理基礎実習II 臨床心理実習IA・B・C・D(心理実践実習I・II・III・IV) 臨床心理実習IIA・B・C・D
【主な臨床領域または専門分野】教育領域(教育相談・教員へのコンサルテーションなど)
【主な臨床技法】プレイセラピー ナラティブセラピー
【研究課題】ディスコース分析(特にポジショニング理論)による心理支援過程の理解、学校の対立問題解消に資するナラティブアプローチの開発



齊藤 和貴
(公認心理師 臨床心理士)

講師、博士(人間学)

【担当科目】臨床心理基礎実習I・II 臨床心理実習IA・B・C・D(臨床実践実習I・II・III・IV) 臨床心理実習IIA・B・C・D
【主な臨床領域または専門分野】福祉領域
【主な臨床技法】認知行動療法
【研究課題】ひきこもり当事者や家族、支援者への有効な支援の探索



藤城 有美子
(公認心理師 臨床心理士)

教授、博士(医学)

【担当科目】臨床心理学特論II 臨床心理面接特論II 心理療法特講D(心理支援に関する理論と実践III) 臨床心理基礎実習II 臨床心理実習IA・B・C・D(心理実践実習I・II・III・IV) 臨床心理実習IIA・B・C・D 臨床心理学研究実践I・II
【主な臨床領域または専門分野】医療領域 青年期・成人・高齢者
【主な臨床技法】精神力動的アプローチ(精神分析的心理学療法・その他)
【研究課題】力動的観点による心の理解、障害者・慢性疾患患者の心理、地域メンタルヘルス、健康サービス、健康行動



丸山 慎

教授、博士(教育学)

【担当科目】認知心理学特講 臨床心理学研究実践I・II
【主な臨床領域または専門分野】認知心理学 発達心理学 生態心理学
【研究課題】乳幼児の認知的発達、芸術と心理、身体と心の関係

非常勤教員

稲吉 玲美

【担当科目】臨床心理学研究法特講

織田 邦彦

【担当科目】心理療法特講A(遊戯療法)

片岡 優介

【担当科目】心理療法特講C(心理支援に関する理論と実践II)

小林 玄

【担当科目】障害者心理学特講(福祉分野に関する理論と支援の展開)

関 真粧美

【担当科目】人格心理学特講 異常心理学特講

竹島 正

【担当科目】精神医学特講(保健医療分野に関する理論と支援の展開)

永房 典之

【担当科目】社会心理学特講

割澤 靖子

【担当科目】産業・労働分野に関する理論と支援の展開

⇒ カリキュラム

必修科目	選択必修科目	
臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ	精神医学特講 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	コミュニティ・アプローチ特講 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ)
臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)・Ⅱ	障害者心理学特講 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	心の健康教育に関する理論と実践
臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)・Ⅱ	学校臨床心理特講 (教育分野に関する理論と支援の展開)	認知心理学特講
臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	人格心理学特講
臨床心理実習ⅠA・B・C・D (心理実践実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	異常心理学特講
臨床心理実習ⅡA・B・C・D	心理療法特講A・B C(心理支援に関する理論と実践Ⅱ)・ D(心理支援に関する理論と実践Ⅲ)	社会心理学特講
臨床心理学研究実践Ⅰ・Ⅱ	家族心理学特講 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	心理学研究法特講 臨床心理学研究法特講

■修了要件	2年以上在学し、必要単位(必修科目:22単位、選択必修科目:10単位、合計:32単位)を修得し、修士論文審査に合格すること。修士論文指導の教員は、本人の希望と研究テーマに基づいて専攻会議で決定します。
■学位	修士(心理学)
■取得資格	公認心理師:卒業した大学院課程(学部)での単位取得科目が国の指定する要件を満たしており、かつ、大学院課程で指定の単位を取得して修了すると、公認心理師の国家試験の受験資格が得られます(2024年3月修了見込み者からは、修了前の2月頃が受験日となる予定です)。 臨床心理士:本学は臨床心理士養成に関する第1種指定大学院なので、修了すると(公財)日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士」資格試験の受験のための資格が得られます。((公財)日本臨床心理士資格認定協会指定の必修科目と選択科目を用意しているため、単位を取得すれば、「臨床心理士」資格試験の受験資格が取得できます。)

⇒ 時間割

2023年度 修士課程1年生 前期(例)					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限 9:00～10:30	—	—	臨床心理面接特論Ⅱ*	臨床心理実習ⅡA*	認知心理学特講**
2時限 10:40～12:10	—	臨床心理学特論Ⅰ*	社会心理学特講**	—	人格心理学特講**
3時限 13:00～14:30	—	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践Ⅰ)**★	臨床心理基礎実習Ⅰ*	—	臨床心理査定実習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ)**★
4時限 14:40～16:10	—	家族心理学特講(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ)**★		—	臨床心理学研究実践Ⅰ*
5時限 16:20～17:50	—	—	—	—	—

【前期集中講義】産業・労働分野に関する理論と支援の展開、障害者心理学特講(福祉分野に関する理論と支援の展開)、精神医学特講(保健医療分野に関する理論と支援の展開)、臨床心理学研究法特講

2023年度 修士課程1年生 後期(例)					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1時限 9:00～10:30	学外実習(教育分野)★	心理療法特講A**	—	臨床心理実習ⅡB*	臨床心理実習ⅠA(心理実践実習Ⅰ)**★
2時限 10:40～12:10		心理療法特講B**	—	臨床心理学特論Ⅱ*	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開**★
3時限 13:00～14:30		学校臨床心理特講(教育分野に関する理論と支援の展開)**★	—	コミュニティ・アプローチ特講(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ)**★	臨床心理査定演習Ⅱ*
4時限 14:40～16:10		心理学研究法特講**	—	—	臨床心理学研究実践Ⅰ*
5時限 16:20～17:50		—	—	心理療法特講C(心理支援に関する理論と実践Ⅱ)**★	—

【後期集中講義】臨床心理基礎実習Ⅱ

*…必修科目(必ず履修しなければならない科目)
**…選択必修科目(興味・関心に合わせて選択する科目)
★…公認心理師受験資格を得るために必要な科目

⇒ 講義の内容

授業科目名	講義等の内容
●臨床心理学特論Ⅰ 綾城 初穂	公認心理師・臨床心理士となる上で必要不可欠な専門職としての知識及び資質を培うことを目指す。臨床心理学の歴史、法律、理論、研究、実践領域、実践方法など、専門的な学習を行う上で前提となる知識を学ぶ。また、プレゼンテーションやディスカッションを通して、臨床心理学を実践・研究する上で基盤となる、適切な情報の集約や他者とのコミュニケーションの在り方についても修得する。
●臨床心理学特論Ⅱ 藤城 有美子	心理専門職としての将来の活動の土台を形成するために、本講の前半では、臨床心理学の実践面に目を向け、臨床心理面接の導入期からアセスメント、心理療法にいたるまでの過程で遭遇しやすい問題を、臨床分野や学派を越えて取り上げる。後半では、心理臨床活動における研究的アプローチについて扱っていく。各自が選んだ臨床心理学の先行研究、とくに調査研究の学術論文を検討の素材とし、背景理論の特質・意義・課題などを検討するとともに、臨床心理学研究における方法論とエビデンスについて理解を深める。
●臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践Ⅰ) 綾城 初穂	臨床心理面接の基本的な技能と態度を学習することを目的とする。特に本授業では社会構成主義的な視点も導入し、クライアントを孤立した個人として捉えるのではなく、さまざまな文脈の中に位置づく存在として捉え、クライアントと協働する臨床心理面接がどのように達成できるかについて学んでいく。また、多文化的な視点や学習者自身の省察も一貫して取り上げていく。
●臨床心理面接特論Ⅱ 飯田 敏晴 藤城 有美子	初回面接(受理面接)の前後で重要な事柄(守秘義務、インフォームド・コンセント、治療契約など)、初回面接の仕方、面接記録の書き方などについて、文献講読によって学ぶとともに、ロールプレイで体験的に学習する。
●臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践) 飯田 敏晴 依田 尚也	臨床心理査定(アセスメント)は、人間の心理的特性を幅広く測定・評価するという点で、単なる病理診断とは異なる。心理的アセスメントの意義と基本的視点を学び、さらに心理的アセスメントとして用いられることの多い心理検査の中から、ウェクスラー式の知能検査を中心に理論と方法を修得する。また、心理に関する相談、助言、指導等への応用について学ぶ。
●臨床心理査定演習Ⅱ 飯田 敏晴 依田 尚也	臨床心理査定の実施とその解釈、所見のまとめ方を学ぶ。ロールシャッハ・テストを中心に、実施の方法、スコアリング、量的分析、継起分析を学ぶ。また、ロールシャッハ・テストの事例を通じて、病理の現われ方を学ぶ。さらにテスト・バッテリーを組むことによって、パーソナリティを多層的に捉えることについて学ぶ。また、得られた情報をクライアントにどのようにフィードバックするか、その実際を修得する。
●臨床心理基礎実習Ⅰ 齊藤 和貴 藤川 麗	臨床心理面接法の基礎的理解と技能・技術を養うために、学内の心理相談センターの面接室を使用して、主としてカウンセリングのロールプレイングを行い、その逐語録を検討し臨床的態度や技能を身につける。さらに、グループ・カンファレンスで事例のより詳細な検討を加える。
●臨床心理基礎実習Ⅱ 綾城 初穂 飯田 敏晴 齊藤 和貴 藤川 麗 藤城 有美子 依田 尚也	学外実習への準備として、学内で行う臨床実習である。他大学院と合同で試行カウンセリング実習を行い、セラピスト体験やクライアント経験を通して臨床心理面接の基礎的な実践技能、心理査定に関する知識と技能、ケース・マネジメントに関する技能、職業倫理・法的義務について理解を深める。
●臨床心理実習ⅠA・B・C・D(心理実践実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ) 綾城 初穂 飯田 敏晴 齊藤 和貴 藤川 麗 藤城 有美子 依田 尚也	臨床現場で必要とされる高度な実践力を養うために、臨床心理実習ⅠA・B・C・D(心理実践実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)ではそれぞれ教育分野、保健医療分野、福祉分野の機関で継続的な学外実習を行い、実習先での指導、および、小グループでのケース検討会において教員からの指導を受ける。臨床心理実習Ⅳ(心理実践実習Ⅳ)では駒沢学園心理相談センターで学内実習を行い、教員の指導の下、陪席やケース担当のほか、センター運営やアウトリーチについても実践的経験を積む。
●臨床心理実習ⅡA・B・C・D 綾城 初穂 飯田 敏晴 齊藤 和貴 藤川 麗 藤城 有美子 依田 尚也	院生が心理相談センターで陪席したインテークや、自分で担当したケース、学外実習における心理臨床活動について発表し、公認心理師・臨床心理士資格を持つ教員からスーパービジョンを受ける時間である。発表や他の院生とのディスカッション、教員からのコメント等により、各自が臨床的理解を深め、インターカーやセラピストとしての在り方を学び取っていく。

⇒ 講義の内容

授業科目名	講義等の内容
● 精神医学特講 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) 竹島 正	精神保健とは、人間とその行動の理解を踏まえ、「共に生きる社会」の実現という理念のもと、社会におこるさまざまな問題の実態と関連する要因を明らかにしつつ、社会との協働によってその解決を図り、社会をよりよいものにしていく活動をいう。精神保健の歴史、考え方、地域実践を学び、受講者自身の精神保健についての考えを深め、自らの生き方や実践の素材とすることを目的とする。
● 障害者心理学特講 (福祉分野に関する理論と支援の展開) 小林 玄	近年の障害の捉え方や法律、制度を概観し、それぞれの障害特性を理解した上で、個々のニーズに即した支援の在り方を事例も交えながら考察していく。扱う障害は、肢体不自由、視覚障害、知的障害等の他、近年、医療や心理教育相談の場で扱うことが多くなった発達障害について、主訴から支援方針の立案までを詳説する。学校、相談室、医療機関で用いることの多い知能検査や認知発達検査についても言及し、現場に出たときの実践力にもつなげていく。
● 学校臨床心理特講 (教育分野に関する理論と支援の展開) 綾城 初穂	教育領域に関係する知見や諸問題を、心理学的な観点から学ぶ。具体的には、教育心理学や発達心理学に関する知見や発達障害をはじめとする臨床心理学的知見に加え、いじめや不登校といった学校で生じる諸問題の理解や考えられる対応について学びを深める。対応については、いくつかの臨床心理学的理解に加え、主にナラティブセラピーに基づく考え方を扱う。
● 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 田中 教仁	少年事件では、家庭裁判所調査官の社会調査や少年鑑別所の資質鑑別により非行の科学的分析が行われる。一方、刑事事件でも、応報的な罰だけではなく、犯罪に至った人の社会的な躰き、発達上の課題等を踏まえて適切な援助をする「治療的司法観」が世界的に広がっている。そのような状況を概観した上で、犯罪や非行のアセスメント、処遇、被害者への支援といった領域において、心理専門職が果たしうる役割について学んでいく。
● 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 割澤 靖子	産業・労働分野では、Covid-19の蔓延をはじめとする予測不能かつ多様な変化への対応を迫られ続ける個人と組織が心理援助の対象となる。支援に際しても、特定の支援モデルに即して対応することには限界があり、いかなる変化にも臨機応変に対応できるよう、個人と組織に即した支援を柔軟に展開することが求められる。本講義では、産業・労働分野における基礎的な理論や法律の知識を修得することを第1の目的とする。そして、本領域で求められる柔軟な心理援助の在り方について、企業における心理援助の実際に触れながら、実践的に考える力を身につけることを第2の目的とする。
● 心理療法特講 A (遊戯療法) 織田 邦彦	プレイセラピー(遊戯療法)を理解するために、子どもによくみられる問題や症状、子どもの問題や症状を理解するために役立つ発達理論を学んだ上で、本にのっている実際のプレイセラピーの事例について興味を持った事例を各自発表し、全体でディスカッションを行う。さらに、プレイセラピーの実際の感覚に近いものを味わうために、プレイセラピーの演習を行う。また、プレイセラピー同様に、教育相談機関などで用いられている箱庭療法についても、グループで箱庭を制作する。
● 心理療法特講 B (芸術療法) 依田 尚也	絵画療法を代表とする芸術療法について学び、心理療法における非言語的なアプローチ、および、その適応と注意点について理解する。また、受講生同士で各技法を試行し合うことで、芸術療法におけるクライアント-セラピスト関係の重要性について体験的に学ぶ。さらに、芸術療法に関する事例論文を読み込み、その臨床的意義と限界についても検討する。
● 心理療法特講 C (心理支援に関する理論と実践Ⅱ) (認知行動療法) 片岡 優介	近年臨床心理の現場ではエビデンスに基づく治療と援助への要請が高まっている。その中で認知行動療法(CBT)による心理実践が多くの精神疾患や心理的な問題に対して有効な治療となることが確認されてきている。日本においても医療現場のみならず福祉・教育・司法・産業分野など幅広い現場で働く公認心理師、および臨床心理士にとってその知識やスキルは必須なものになっている。本授業では認知行動療法の基礎的な理論を理解し臨床現場で応用することのできる力を育成することを目的とする。認知行動療法は、セルフケアとしても活用できるアプローチである。来談者に対して使えるようになるだけでなく、受講生自身がセルフケアに使えるようにワークを用いながら体験的に理解できることを目指す。
● 心理療法特講 D (心理支援に関する理論と実践Ⅲ) (精神分析的心理学) 藤城 有美子	この講義は演習形式で行い、精神分析的心理学の概略と、そのために必要な基礎知識を身につけ、ケースを精神分析的に理解できるようになることを目標とする。精神分析的な治療とは、第一にはフロイトが創始した精神分析の実践を指すが、わが国の臨床分野での実践形態としては、より幅広い応用が含まれている。ケースおよびセラピスト自身の内面を深く理解し、それを治療に活用していくことは、心理療法を進めていく上で非常に有用である。

授業科目名	講義等の内容
● 家族心理学特講 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ) 田中 教仁	家族心理学の知見は、医療、福祉、教育、司法などさまざまな実践領域で活用されている。これは、家族全体を援助の対象とするだけでなく、個人を援助していく上でも、家族という要素を切り離して考えることが難しいことを示しているといえよう。本講義では、個人や家族が直面する諸問題の理解と援助方法について、精神分析的力動論、家族システム論などさまざまな立場の理論を紹介し、夫婦の危機(離婚、DV)、児童虐待、高齢者虐待、犯罪・非行などについて、適宜臨床素材を用いて検討を深めていく。
● コミュニティ・アプローチ特講 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ) 藤川 麗	集団や地域社会に働きかける心理学的援助に関する理論と方法として、グループ・アプローチとコミュニティ・アプローチの基本的理論と技法を学ぶ。まず、グループ・アプローチの歴史と発想を学び、代表的なグループ・アプローチの1つとしてソーシャル・スキル・トレーニングを体験する。次に、コミュニティ・アプローチの歴史と発想を学び、危機介入法、コンサルテーション、多職種間の連携・協働といった方法をロールプレイやグループワークを通して体験的に学習する。
● 心の健康教育に関する理論と実践 藤川 麗	心の健康に関する知識普及を図るための教育、情報提供の方法を学ぶ。心の健康教育の背景となる社会状況(施策など)について理解した上で、多様な対象(うつ病、薬物依存症、心的外傷後ストレス障害<PTSD>など)に対する心の健康教育の実際を学ぶ。また、支援者のメンタルヘルスクアについても学ぶ。ストレス・マネジメントの基礎的な理論と技法を学び、それらを活用して実際に心の健康教育プログラムを企画し、授業内で試行することを通して体験的に学んでいく。
● 認知心理学特講 丸山 慎	人間の認知のメカニズムを包括的に理解するためには、脳や中枢神経系の成熟・変化について知るだけではなく、身体と認知の関係および人間が遭遇する多様な環境との相互的(ないし相補的)な関係のダイナミクスについても知る必要がある。本講義では、とくに近年の認知科学における「身体性認知」、「生態学的心理学」などのアイディアに焦点をあて、「こころの動き」の本質にアプローチする方法について、改めてラディカルな視点から議論していく。
● 人格心理学特講 関 真粧美	人格理解のための理論について学ぶ。授業では最初に、類型論、特性論、精神分析的人格理論、行動主義的学習理論、人間性理論といった、主要な人格理論について講義する。その後はテキストを用いて、精神分析的な人格理論の理解を深める。精神力動的理解の基礎となる知識を身につけることで、心理療法、および心理査定における人格理解の一助となることを講義の目的である。
● 異常心理学特講 関 真粧美	臨床心理学の実践および研究における心理的問題や精神病理について理解する。特に、力動的な視点を援用し、クライアント本人の主観的な苦痛の体験についての理解を深める。症状名や診断名という切り口からだけでなく、当事者の主観的苦痛を想像し理解しようとする姿勢を身につけるためには、自分自身の主観を観察し、言語で表現できるようになることを重視する。
● 社会心理学特講 永房 典之	臨床場面では、自己の性格、対人関係の悩み、集団内または集団間の葛藤、異文化への不適応といった問題が考えられる。また、このようなこころの問題やカウンセリングでは、自己の「感情」へのアプローチが重要な役割を果たすと考えられる。本講義では、自己の感情を専門的に学びつつ、社会心理学の基礎・応用的理解を目指す。また、社会心理学では、実験や調査などの実証的研究知見が多いことから、受講生自身の研究、修士論文作成に向けた調査票作成・統計処理やそのまとめ方の指導も行う。
● 心理学研究法特講 富士原 光洋	臨床心理学研究に用いられる観察法と質問紙法の理論と技法について講述する。観察法では、参加観察法、アクションリサーチの研究事例をあげ、その有効性と問題点を明らかにし、調査法では、質問紙のワーディングの影響による回答の異なりやサンプリングなどの問題を取り上げ、実践的技法について検討する。
● 臨床心理学研究法特講 稲吉 玲美	「こころ」の問題に対する援助活動を行っていく者に求められる重要な社会的責務の一つに、援助を求める人に対して確かな知識や技術的なかわりを提供することがあげられる。この責務を果たすためには、臨床心理学の研究活動を行い、確かな知識や技術的なかわりを裏付けるデータを積み上げる態度が求められる。そこで本講義では、臨床心理学研究に関する基本的な知識を学ぶことを通じて、「こころ」の多様なありようを科学的視点から捉える力を養い、それら実践の場に還元していく可能性を考える力を培うことを目的とする。

※年度によって開講しない科目もあります。

⇒先輩の声

保健医療、福祉、教育、産業・労働、司法・犯罪、私設心理相談など、多方面で活躍しています。



心理療法専門機関で深く、じっくりと。

2009年度修了 若山 須賀子さん

心理療法の専門機関で働いています。個人心理療法を中心としながら、家族への心理教育や社会適応に向けた環境調整なども行います。提携する精神科クリニックからの紹介も多く、人間関係、家族関係に関する一般的な相談から、うつ病、パニック障害、発達障害、人格障害など、さまざまな精神障害に関する臨床的相談まで、援助対象はさまざまです。責任は大きいですが、構造化された心理面接が保証され、継続的な治療的面接ができる点で、大変やりがいのある仕事です。



精神科病院で患者さんと向き合う。

2012年度修了 齋藤 由華さん

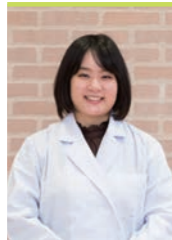
私は、精神科病院の心理職として働いています。日々、カウンセリングや心理検査をさせていただく中で、自分の未熟さを知り、技術を磨かねばと感じることも多くあります。とはいえ、患者さんとの出会いは一期一会です。知識や経験を有効に活用し、相手のために学んだ専門性を最大限に活かしていくことが心理専門職者として大切なことだと考えています。そのためには病院内の他職種のスタッフとの協働が不可欠であると、現場に出ることで痛感するようになりました。覚えることが多く、大変なこともしろいろありますが、院生時代の実習や講義が改めて生かされていると感じる毎日です。学んだことや経験が実となるように、研鑽を続けていきたいと思っています。



多職種連携で寄り添い、支えていく。

2013年度修了 瀬山 千尋さん

役所の中で女性相談員とひとり親の支援員として働いています。女性の相談はDVや離婚に関する相談、若年女性や特定妊婦さんの支援などを行っています。窓口相談や電話相談を行いながら、必要な支援を行います。DVの場合にはシェルターの案内や、警察、または児童相談所と連携を行うこともあります。また女性の支援全般を行うため、仕事を探している方、家が無い方の支援をすることもあり、大学院で勉強してきた知識を活かしながら、見立てを行い、適切な支援につなげます。今後も研鑽を積んでいきたいと思っています。



司法と保健医療がつながる領域で。

2014年度修了 山口 まりこさん

現在、私は医療観察法病棟に勤めています。患者さんは、過去に心神喪失・耗弱の状態で行った他害行為を行い、裁判所によって治療が必要と判断された方々です。私が担当するのは、グループ療法、個人面接、心理検査、地域の関連機関とのカンファレンスです。治療では、他職種と連携して患者さんの個性を重視した支援となるよう努めていくことにやりがいを感じています。大学院時のゼミや病院実習での経験は現在の業務に活かせることが多く、とても役立っています。今後も研鑽を積んでいきたいと思っています。



県の心理職として幅広い支援を。

2015年度修了 細川 沙弥さん

院での生活は、幅広い知識と経験を持つ先生方のもとで学び、ボランティアにも参加してとても充実していました。他職種との連携や協働について学ぶ機会も多く、院での学びが現場で生かされています。現在は県の心理職として、地域に密着した多様な仕事を行っています。個人の生活に密着に関わるのだから忘れない、周囲と連携して支援に携わりたいと考えています。また、私の目標である「クライアントを様々な角度から捉え、あらゆる支援ができる心理専門職者」を目指し、日々研鑽に励んでいます。



子どもたちの支えとなる教育相談員に。

2016年度修了 山崎 千聖さん

学部の授業で、発達障害や家族の問題から学校で不適応となる子どもがいることを学びました。そのような子どもたちを支援したいと思い、より専門的な知識を学べる大学院への進学を決めました。大学院での実習でさまざまな悩みを抱える子どもとかわる中で、子どもの気持ちに寄り添うことや、個人の特性に合った支援を考え続けることの重要性を実感しました。現在は、教育相談室で教育相談員として勤務しています。子どもたちにとって安心できる存在となれるよう、大学院での学びを活かして頑張りたいと思っています。

修了生の進路、就職先

【修了後1年目】医療・保健領域：50.9%、福祉領域：34.5%、教育領域：58.2%、大学・研究所領域：3.6%、産業・労働領域：3.6%、私設心理相談領域：3.6%、研修相談員・ボランティア等：34.5%、その他：16.4%

【現在】医療・保健領域：41.3%、福祉領域：45.7%、教育領域：63.0%、大学・研究所領域：4.3%、産業・労働領域：8.7%、私設心理相談領域：6.5%、研修相談員・ボランティア等：15.2%、その他：13.0%

2016年度「修了生アンケート」結果より(複数勤務あり)
公認心理師養成カリキュラム開始前の調査であるため、「分野」ではなく、臨床心理士の活動の場を分類する「領域」を使用

年間スケジュール



4月

入学式
新入生歓迎会



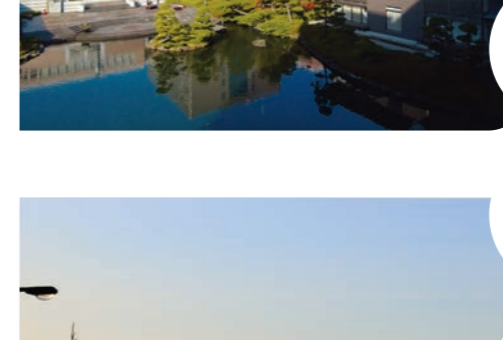
5月

指導教員決定(1年次)
臨床心理実習ⅠA(心理実践実習Ⅰ)報告会(学外実習：教育分野)(2年次)
外部模擬試験



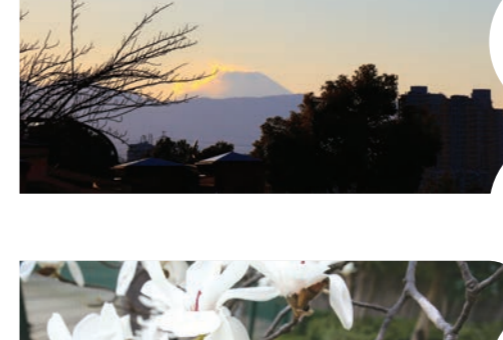
6月

修士論文研究：分析・考察(2年次)



7月

修士論文構想発表会(1年次)



8月

夏季院生自主勉強会



9月

諸学会への参加

10月

臨床心理士資格審査模擬面接：2次試験
修士論文予備審査会(2年次)

11月

駒沢女子大学臨床心理学研究会
修士論文研究：予備審査結果を踏まえての再検討

12月

修士論文提出(2年次)
修士論文公開審査会(2年次)
臨床心理実習ⅠB・C(心理実践実習Ⅱ・Ⅲ)報告会
(学外実習：保健医療分野・福祉分野)

1月

公認心理師試験・臨床心理士資格審査合格者報告会

2月

春季院生自主勉強会

3月

修了生を送る会
修了式・学位授与
謝恩会(先生と修了生のお別れ会)